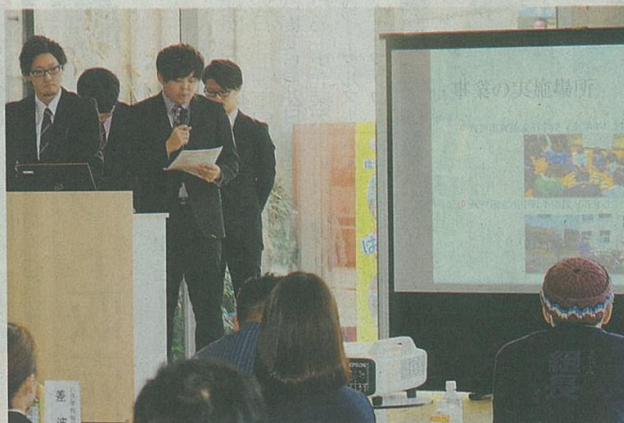


まちづくり 苦勞と発見

市助成活用 学生4団体成果発表



活動について発表する学生たち

八戸市の「学生まちづくり助成金制度」を活用して活動に取り組んだ学生たち

八戸市の「学生まちづくり助成金制度」を活用して活動に取り組んだ学生たち
が成果を発表するコンペティションが2月25日、同市の八戸ポータルミュージアム「はっち」で開かれた。四つの団体が学生らしいアイデアと行動力で挑戦した。さまざまな活動を振り返った。

同制度は、学生が自主的に取り組む地域貢献やまちづくり活動を支援しよつと2011年度に始まった。本年度は八戸工業大建築デザイン研究部(ADL)、八戸学院短大池田ゼミナール、同短大幼児保育学科差波ゼミ、八戸高専科学部が、親子で楽しめる実験教室の開催や無料通信アプリ「LINE(ライン)」の「ご当

地スタンプ作成などに取り組んだ。
コンペティションでは、各団体が活動内容や苦勞したこと、今後の目標などを発表。アーティストで市民集団「まちぐみ」の組長を務める山本耕一郎さんら3人のアドバイザーと質疑応答を行った。より地域貢献度が高い団体に贈られる市長賞には、小学生と学校周辺を歩いて地域の魅力を見つけ、それを題材にしたかるたを作成したADLが選ばれた。
ADL部長の大嶋宏昌さん(八工大3年)は「小学生や地域の人と関わることでできて良い経験になった。今回の活動を生かして、一つの地域に住む人たちが年齢を問わず交流できる場をつくりたい」と話した。(山内はるみ)